



第4回 連続セミナー

「入所施設の余暇支援の取り組み—生きがいを見つける—」

社会福祉法人侑愛会星が丘寮園長 中野 伊知郎 氏

北海道北斗市当別地区にある、星が丘寮園長の中野伊知郎氏を講師にお迎えしました。遠く離れた北海道の地より講師をお迎えできるのは、Zoom によるオンライン研修ならではの良さであると感じました。

24 時間 365 日のアセスメントを中心とした個別支援を展開して、生活全般をトータルで支える方法について具体的なお話をいただきました。「（星が丘寮の）支援の原則についての共有」「余暇についてのアセスメント」等を行うことによって、一人一人の利用者の方の「人生の生きがい」を見出せることを今回のセミナーから学びました。

一人一人がその人らしくいられる支援

- 「支援の原則」 自閉スペクトラム症の方のできることを尊重し、「お世話に明け暮れないこと」「お世話をするのは支援者の自己満足は得やすいが、利用者がその人らしくいられる支援とは異なること」「利用者自身でできるために、あらかじめの準備は惜しまないこと」を大切にしている。
- 「自立とは本人の力と支援の和」 説明を受けなくても利用者が自身でできる自立を目指し、あらかじめの準備（支援）を提供する。人、モノ、機器などを活用し、①具体的に②肯定的に③視覚的に伝える。
- 「学習スタイルを知る」 自立に向けての支援に必要なことは、その人の学習スタイルを知ることであり、「画一的ではない」「その人がわかる、できる、使いやすい」ことである。そしてスモールステップによる支援を具体的に示し、行動の一つ一つを積み重ねることで意味を理解することにつながる。

支援者は発想の転換、アイディアが必要

- 「自閉スペクトラム症として生きていくことを支える」 定型発達の人と情報の処理の仕方が違うことを踏まえて、学習スタイルを知り、できることを生かした支援を考える。
例・話し言葉による意味理解が難しい→視覚的な情報で意味を理解することが得意
・臨機応変に対応することが難しい→ルーティンが得意
・経験していないことについて、想像することが難しい→繰り返しの経験で理解できる
・訴えることができなかったり、独特な表現だったり、一方的であったりする
→利用者の訴え方を周囲が正しく理解したり、利用者が表現手段を獲得すれば表現できたりする
- 「構造化のアイディア」 支援で大切なことは、「主体的に活動ができること」「本人の得意、興味があること」を尊重した構造化のアイディアで自立を支援することである。このことが、地域で自立した生活へとつながる。

人生の「生きがい」を見いだす

- 働くことの「達成感」から、楽しむための「やりがい」への支援にシフトしている背景には、利用者の高齢化が進んでいることにある。
- 「余暇」について、「自分のできることは何か」を見つけられることは、人生の「生きがい」を見出すことにつながり、重要である。

余暇のアセスメントを通して

- 「興味・関心に対するアセスメント」 表現することについてのコミュニケーションが苦手な、さらに興味・関心のあるものは何かが他者に分かりにくく、特定の興味・関心が狭く深くなってしまいがちな自閉スペクトラム症の方には必要不可欠である。
- 「余暇アセスメント」 活動に関する興味・関心を確認することを目的として、43 個の活動サンプルと7つのカテゴリーに分けてアセスメントをする。利用者の実態に応じて柔軟に行う。
- 「評価の基準」 「自ら手にとっているか」「何度も繰り返し行っているか」「持続時間はどの程度か」の3点について、自発的な行動を待つことを大切に、様子は撮影して評価する。
- 「ターゲットとする余暇活動を設定」 アセスメントの結果からチームで話し合い、余暇活動を決定し、計画をたて、生活の場に取り入れていく。

余暇活動を取り入れることで活動と生活の幅が広がり、一人一人の「好き」「得意」が生きがいにつながっている素晴らしい事例について、動画を交えてたくさん御紹介いただきました。

令和4年度千葉県 TEACCH プログラム研究会第5回セミナー

講師 梅永 雄二 先生の著書御紹介



発達障害の人の
「就労支援」がわかる本
(健康ライブラリー)



よくわかる
大人のアスペルガー
(こころのクスリ BOOKS)



よくわかる！
自閉症スペクトラムの
ための環境づくり
(ヒューマンケアブックス)

その他、多数の著書があります。

令和4年度 TEACCH プログラム研究会第6回連続セミナー（実践報告）紹介

日 時：令和5年2月18日（土）

会 場：千葉県教育会館303会議室（千葉市中央区中央4-13-10）

演題及び発表者：

- ・朝倉 潤一 様（松戸市自閉症協会）「新型コロナウイルスの家庭への影響（仮題）」
- ・鏡 良幸 先生（市原市立菊間小学校）「特別支援学級における支援の取り組み（仮題）」
- ・鶴沢 敦史 先生（社会福祉法人菜の花会ネクスト名木小）「根拠ある支援の組み立て」

※オンデマンド動画配信 配信期間：2月24日（金）～3月12日（日）

申込締切日：令和5年2月16日（木）

【編集後記】「お世話をしているだけの支援になっていないか」という言葉にドキッとしました。学校現場にいる私自身がもう一度「本人の分かる方法で支援し、できることを増やし、自立につなげることをみんなで共有して支援したいと思いました。10年前、おしま学園へ見学に行き、トータル支援のすごさを目の当たりにして胸が熱くなったことを思い出しました。それには、「できないことに目を向けるのではなく、できるためにどうしたらよいのか」を考え、その人にあった構造化のアイディアを出し合い、地域で生活していくための支援をしていくことです。やはり、アセスメントと協働ですね。（吉村）